

「戦国沼津の三大城巡り」 展示の概要

1. 興国寺城

興国寺城は、戦国時代に関東一円を手中にした北条氏の祖、北条早雲旗揚げの城とされています。10ha以上にも広がる巨大な城で、後にこの地を治めた今川氏や武田氏も、その重臣を興国寺城に配し、東駿河湾支配の拠点となっていました。

展示では、平成15年度より本格的に始まった発掘調査の成果を写真パネルで解説します。



北曲輪

2. 三枚橋城

三枚橋城は、戦国時代後半に武田氏によって現在の大手町周辺に築られました。狩野川を挟んで南側は北条氏の領国であり、武田氏の最前線基地として重視されていました。戦国時代末期には豊臣家の支配下となり、天守閣も築られました。



旧東急ホテル建設の際に発見された石垣

今回は、絵図や発掘調査時の写真、天守閣の瓦や三の丸から出土した陶磁器などを展示します。

特に、平成6年度に発掘調査が行われた「石垣」のパネルは必見です。この石垣の一部は、市立ときわ保育所南側に整備する「築山」のモニュメントとして使われる予定です。

3. 長浜城

長浜城は、北条水軍の基地として築かれた城郭です。築城は三枚橋城とほぼ同時期で、南下してくる武田軍に対する備えとして築られました。

両軍は、千本浜沖などで海戦を行ったことが知られています。

現在は来年度のオープンにむけて公園整備が進められており、今回は調査成果を取り入れた整備の様子を紹介します。



長浜城跡